

春



年頭のあいさつ

下仁田町長

金井康行

新年明けましておめでとうございます。

平成28年の新春を迎え、下仁田町の皆さんに謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

町民の皆様にはご家族お揃いで、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

皆様には、日頃から町政運営に対し深いご理解と絶大なるご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

本年の政治を展望しますと、国政では7月に参議院議員選挙が予定されております。公職選挙法の改正により、選挙権年齢が「20歳以上」から「18歳以上」に引き下げられる初の国政選挙となる見込みですが、国民の政治離れが言われている今、若者の意見を大きく反映させ、より良い社会となっていくことを期待したいと思います。

本町を取り巻く情勢に目を向けますと、全国の山間地域過疎町村での大きな問題である、過疎化・少子高齢化の度合いが高まっており、人口減少対策が喫緊の課題となっています。

このような状況の中、『まち・ひと・しごと創生法』の趣旨に鑑み、昨年6月に町内全世帯アンケートを行いました。『下仁田町は住みよい町だと思えるか』との質問に対して、『やや住みやすい・やや住みにくい・住みにくい』といった、住みやすいと思っていない回答が7割ほどありました。

住みやすくないという結果は、町民皆様の幸福度が足りていないという事であり、これを住みよい町へと発展させることにより町民皆様の幸福度を増大させ、若い人たちが町から離れてい

く要因を解消し、定着していただける方を増やしていくことで、人口減少問題については、ある程度の解消が出来ると思います。

本年は、「みんなで創ろう 輝く下仁田」を基本方針とした第4次総合計画に基づいたまちづくりの最終年度であり、次の輝かしい下仁田町の行動計画を策定する年でもあります。

また、子育て環境整備の一助として、老朽化した学校給食調理場の建設が行われますし、11月には日本ジオパークの関東大会がこの下仁田の地で行われますので、町の大きな活性化につながると思います。

下仁田町の目指すこれからは、町民皆様の幸福度をいかに高めるかという事に注視して、地域活性化対策、災害に耐えるインフラ整備などの災害対策の充実に力を入れるとともに、町民ひとりひとりが明るく過す日常の源は、何よりも心身の健康であることであり、各種の検診をはじめとする予防医療の充実、食生活等のあり方に目を向けて、町政を進めてまいります。

この他にも、与えられた課題は山積しておりますが、町民皆様の声に耳を傾け、子どもたちからお年寄りまで、町民皆様の笑顔が絶えない町であり、行政と町民が一体となった豊かで暮らしやすい町づくりを目指し、職員共々創意工夫を重ね町政を牽引する所存でございますので、どうか本年も相変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

結びに、本年が町民皆様にとって、幸多き年でありますようご祈念申し上げ、新年のごあいさついたします。



平成28年



「開かれた議会を目指して」

下仁田町議会議長

須藤 勇二

明けましておめでとうございます。
希望に満ちた平成二十八年の新春を、健やかにお迎えのこと
と心からお喜び申し上げ、町議会を代表し、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

町民の皆様におかれましては、平素より議会活動に対し多大なご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

振り返ってみますと、昨年の国内情勢は、経済政策の推進により、景気は穏やかな回復基調が見え始めているとは言うものの、地方においては、依然として厳しい状態が続いております。

また、9月の関東・東北豪雨では、鬼怒川が決壊するなど各地で天変地異による災害が相次いで発生し、多くの生命、財産が奪われ、他人事とは思えない出来事もありました。

このような中、明るい話題では「ノーベル医学・生理学賞」「ノーベル物理学賞」の朗報が連日届き、さらに、国産ロケット新時代の幕開けとして、国産初の純商業打ち上げは、経済活性化につながると期待が高まっております。

当町におきましては、人口減少・少子高齢化の進行にともない、将来に向け希望もてるまちを創出するため、「下仁田町まちひと・しごと創生総合戦略」が作成され、本年は、具体的な事業を本格的に推進する段階へと進んでまいります。地方の自治力が問われることから、地方創生の実現に向けて議会も役割を果たして行きたいと思っております。

私ども議会では、秋に任期満了による改選が行われ、皆様方

の負託にこたえるべく決意を新たに、新しい議会構成によりスタートをいたしました。「下仁田町議会基本条例」を制定し、町民にわかりやすく開かれた議会を基本理念とし、目まぐるしく変わる社会情勢に素早く対応できるよう、自らの役目をしっかりと果たし、町が実施する各種施策に対して、後押ししてまいります。

どうぞ皆様におかれましては、この一年が幸多き年であることを祈念申し上げます。年頭にあたつてのご挨拶といたします。

